特別支援教育における連携と実践のシステム構築について
—本人・保護者・教師・専門家の連携による教育実践研究—

企画者　川池 順也（東京学芸大学院連合学校教育学研究科/東京都立村山特別支援学校）
司会・指定討論者　橋本 創一（東京学芸大学教育実践研究支援センター）
話題提供者　川池 順也（東京都立村山特別支援学校）
谷口 明子（東洋大学文学部）
泉 真由子（横浜国立大学教育学部）
坂爪 一幸（早稲田大学教育･総合科学学術院）

KEY WORDS: 連携，教育実践，システム

【企画趣旨】

特別支援教育において，様々な連携による教育実践が期待されている。連携の担い手として，本人・保護者・家族と教師・保育者，医療・福祉・労働・司法分野などの専門職（医師，心理士，リハビリ職，相談職，専門トレーナーなど）がある。具体的な実践には，学校教育における個別の指導・教育支援計画の作成，授業つくり，様々な諸問題の解決などがある。連携のスタイルには，本人・保護者－教師連携,教職員による校内連携,教師－専門家間の連携，学校－外部機関などの地域連携などがある。しかし，必ずしも適切で効率的なシステムが構築されているわけでなく，課題も散在している。そこで，　実践研究事例（授業実践/協議･相談支援/アセスメントなど）の紹介を通して，学校・地域・専門機関等における連携システムの構築に向けて論じたいと考える。（川池順也・橋本創一）

【話題提供】

Rep.1：保護者・教師の連携・協働による授業つくり事例を通した連携システムの構築に向けて（川池順也）

特別支援学校（病弱・肢体不自由・知的障害部門）の訪問教育では、大きく「家庭訪問」と「施設等訪問」の２つの指導形態がある。家庭訪問では保護者、施設等訪問においては、看護師など病棟スタッフが授業を参観することはあるが、授業づくりそのものに参加するという取り組みの事例はまだ少ない。そこで、教師が取り組んでいる学習活動が、児童のどのような発達水準の獲得にアプローチしているのかを保護者や病棟スタッフに説明して共に評価するという取り組みを行った。今回は、本人の得意なことを中心に領域別に判定し、保護者と病棟スタッフ（生活支援員及び心理士等）と合意形成を得ながら授業を進めた事例について紹介したい。

Rep.2：病弱教育における現場と研究者との共同研究の事例を通した連携システムの構築に向けて（谷口明子）

「理論と実践の融合」を強く意識した教員養成教育の重要性が提唱されたことは記憶に新しいが（文科省，2005）、教育現場においても、長年にわたり、両者の融合が求められてきた。同時に、様々な教育実践研究が試みられる中で、現実には理論と実践の融合は言葉ほどにはたやすいことではないことも指摘されてきた。理論と実践の関係には、「理論を実践に応用する」「実践の典型化から理論を構築する」「実践者である教師が内化している理論を探究する」という３つのかたちがあると言われる（佐藤，1998）。いずれのタイプにおいても現場（＝実践者）と研究者（＝理論家）の連携が必須の営みであるが、本発表では、第３のかたちに属する病弱教育実践研究を現場教師と研究者が協働して行った事例を通して、教育現場と研究者の連携システムの構築について考察したい。

Rep.3：復学支援を通した地域連携システムの構築に向けて（泉真由子）

発達障害と不安障害等が併存し学校・家庭生活共に不適応状態となり長期入院をした後、前籍校とは異なる小学校に転校した児童の復学支援を、教育、医療、地域福祉の連携のもと行った。復学支援会議は、退院・復学に向けて複数回行い、初めのうちは医療関係者と院内学級の担当者で行い、退院が近づくと共に、児童本人とその保護者を含めた関係する参加者を段階的に増やしていった。最後の復学支援会議は転校先の学校に関係者が全員出向いて行い、児童本人と保護者が支援授与感を高めるきっかけとなった。本ケースの成果としては、復学支援において特別支援学校（院内学級）、前籍校、転校先の学校が連携し情報共有を行うことの有効性を確認できたことが挙げられ、一方課題としては、関係者の人事異動等によるある専門性からの支援の一時的な中断を想定した多層的な支援チームの体制づくりが挙げられる。

Rep.4：発達障害の臨床的アセスメントの導入事例を通した連携システムの構築に向けて（坂爪一幸）

特別支援教育の連携には関係者（保護者・教師・専門家など）による子どもの共通した理解が前提かつ根拠になる。理解は実証・具体的でなければ実践につながらない。そのような理解を導く，現場で負担なく実施できる臨床的なアセスメントが必要である。発達障害では高次脳機能が遅滞・偏向する。特に言語機能は影響を受けやすい。また学校生活では「ことば」が基本になる。教育実践には言語機能の臨床的アセスメントが欠かせない。特別支援学校でのアセスメントシステムの導入事例を紹介する。連携した子どもの理解と教育実践のために，①保護者と教師の陪席によるアセスメントとカンファレンス（説明･助言）の実施，②アセスメントと関連知識の研修会（保護者・教師向け）の継続した開催，③全担任教師によるアセスメント実施の校内体制の構築と研究授業の相互実施などを行った。

【指定討論】

授業つくり，専門家との協働，問題解決への支援，アセスメントの活用といった連携による効果的な実践研究から，課題の整理と今後の影響について，質的な成果やコストパフォーマンスから討論する。

(KAWAIKE Junya, HASHIMOTO Soichi, TANIGUCHI Akiko, IZUMI Mayuko, SAKATSUME Kazuyuki)